

校内研修サポート オンデマンド研修

特別支援教育

～児童生徒理解と支援方法について～

高知県教育委員会事務局
中部教育事務所

兒童生徒理解

特別支援教育の理念

- 特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。
- 特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものである。
- 特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている。

いろいろな気になる子どもたち



忘れやすい

整頓が苦手



コミュニケーションが苦手

無気力



不注意



聞きもらし

聴覚過敏



物知りはかせ

引きこもり



こだわり



衝動性



多動性

主な発達障害

学習障害 (LD)

全般的に知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論するといった学習に必要な基礎的な能力のうち、一つないし複数の特定の能力についてなかなか習得できなかつたり、うまく発揮することができなかつたりすることによって、学習上、様々な困難に直面している状態。

注意欠陥 多動性障害 (ADHD)

身の回りの特定のものに意識を集中させる脳の働きである注意力に様々な問題があり、又は、衝動的で落ち着きのない行動により、生活上、様々な困難に直面している状態。

自閉症

①他者との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする発達の障害。その特徴は3歳くらいまでに現れることが多いが、成人期に症状が顕在化することもある。中枢神経系に何らかの機能不全があると推定されている。

学習障害（LD）

- 文字を読み間違ふ、読み飛ばす
- 文節の把握ができない
- 文章を理解することが苦手
- 文字を書いて表現することが苦手
- 漢字の読みが覚えられない、覚えてもすぐに忘れる
- 似たような漢字を読み誤る
- 言葉は知っているものの、その意味を十分に理解していない
- 加法減法に時間がかかる
- 九九が覚えられない
- 空間図形のもつ性質を理解することが苦手



など

注意欠陥多動性障害（ADHD）

- 気が散りやすく、じっとしていることが苦手
- 忘れ物や紛失物が多い
- 衝動的に行動し、人やものにぶつかる
- 注意持続の時間が短い
- 説明を聞きもらしたり、最後まで聞かなかったりする
- ルールを守れない
- 過度に集中してしまう
- 身体全体や一部が常に動いてしまう
- 思ったことをそのまま口にしてしまう



など

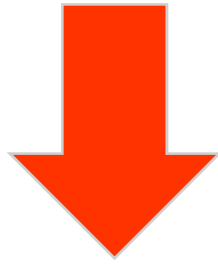
自閉症

- ・相手の言葉を字義通りに受け取る
- ・会話の状況から相手の真意を読み取ることが難しい
- ・相手の表情や言葉の調子などから相手の感情を理解することが難しい
- ・急な予定の変更などに対応することが難しい
- ・特定の動作や行動に固執する
- ・次の活動や場面に意識を切り替えることが難しい
- ・抽象的な表現の理解が難しい
- ・新しい場面への適応が難しい
- ・他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい
- ・感覚に過敏性や鈍感性がある

など



困った子ども



困っている子ども

子どもの「困り感」

【教師の気づき（理解）】
・「やらない」のではなく、
「できない」のでは？



『やり方が分からない？』
『気になることがある？』
『言い方を知らない？』



誰にでも
ありうる
「困り感」



発達障害の
ある子ども
に特有の
「困り感」

- ①自分が困っていることに気づけない。困っていることを言えない。
- ②今は困っていないくても、大きくなって困ることを、今は知らない。

子どもの視点で考える

いつも忘れ物ばかりして、話をしっかり聞いているのかしら。忘れ物しないように、注意しないと！



大事なことは、必ずメモするように声をかけよう。教科ごとに1つにまとめてもらったり、チェックシートでの確認をご家庭にお願いしてみたりしようかな。



困った状態
「忘れ物が多い」



忘れ物をなくさせたい



注意して忘れ物がないようにしないと！

困った状態
「忘れ物が多い」



どこに困っているのかな？



大事なことを書けているか確認しよう

話を聞いているけど何を持ってくるか忘れてしまうんだ。また怒られるから忘れたこともいえないな・・・



先生が大事マークしたところは、書いておこう。黄色のファイルに入っているものは、家の人に見せる約束だったな。



冰山モデル

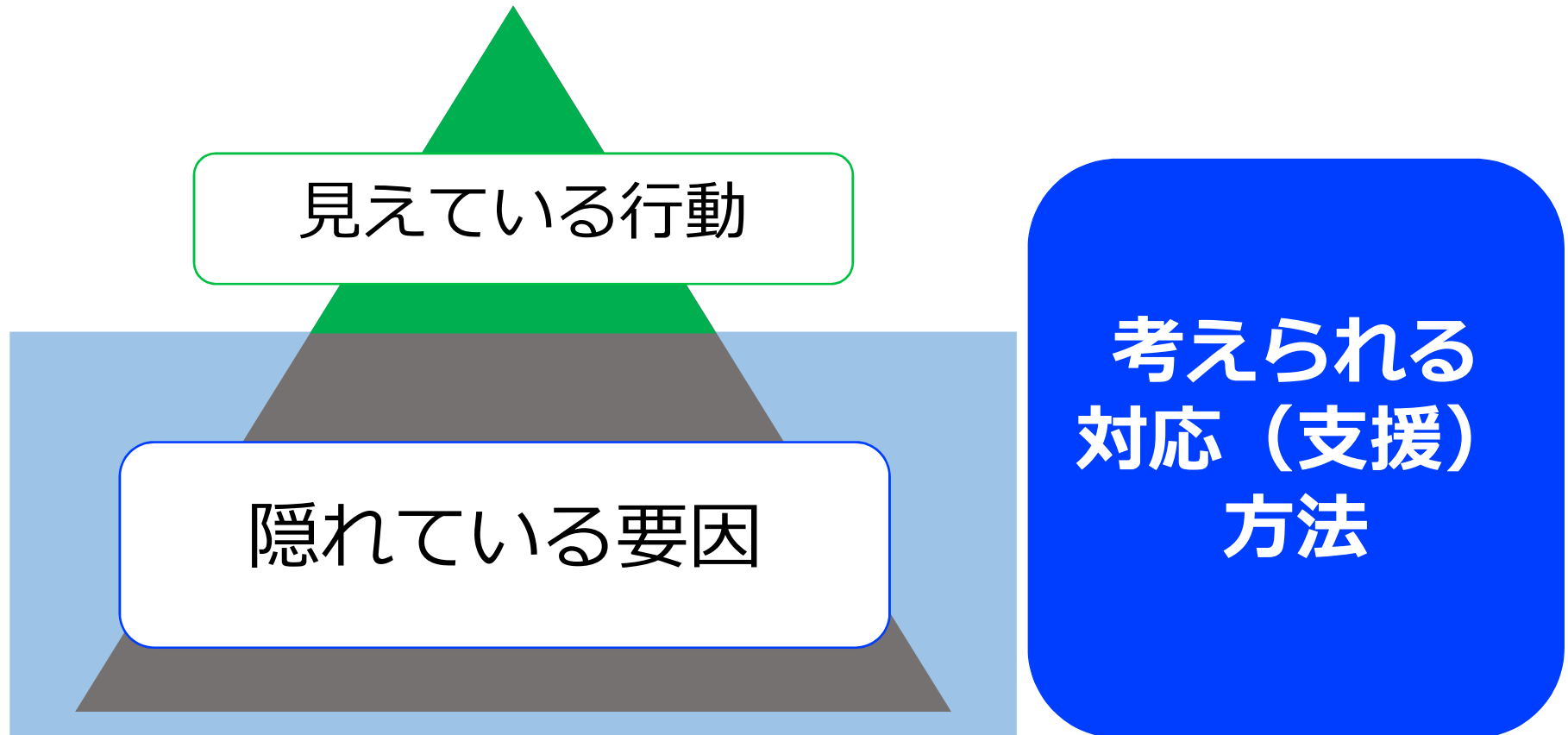


見えている行動

行動理解
と支援

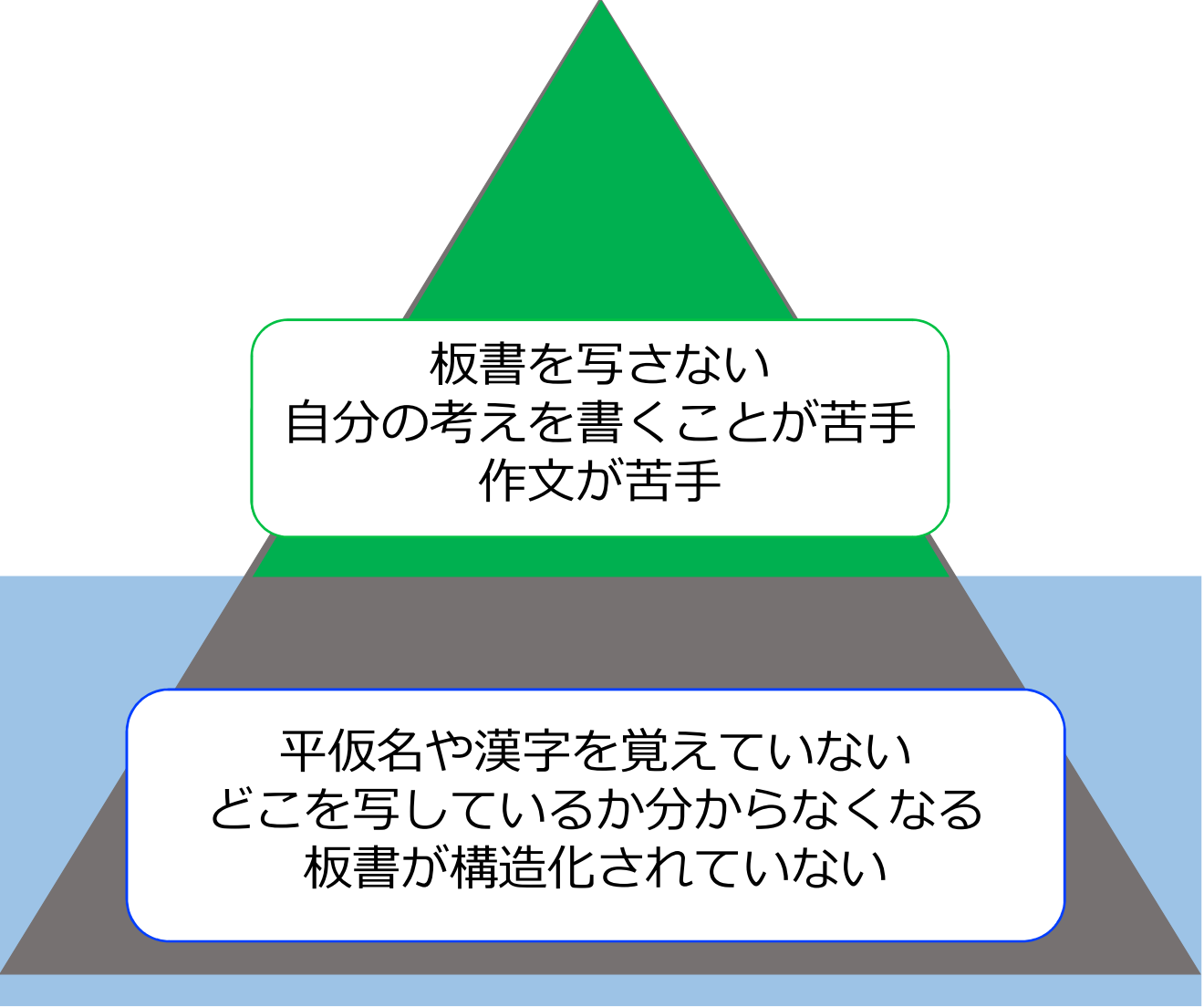
隠れている要因

冰山モデルで支援を考える



冰山モデルで支援を考える

【書字を嫌がる】

An iceberg model diagram with a green tip above a blue water line and a larger grey base below. Two white text boxes with rounded corners are placed on the iceberg. The top box is on the green tip, and the bottom box is on the grey base.

板書を写さない
自分の考えを書くことが苦手
作文が苦手

平仮名や漢字を覚えていない
どこを写しているか分からなくなる
板書が構造化されていない

- ・ 五十音表を持たせる
- ・ 写す箇所を黒板にマークで示す
- ・ 手元に板書のモデルを持たせる
- ・ 写真などで書く内容を思い起こさせる
- ・ リード文を示す

次のような行動が見られるとき、
どんな要因がありそうですか？
どのような支援方法が考えられますか？

【次の順番で進めます】

- ① 個人
- ↓
- ② ペア（グループ）
- ↓
- ③ 全体共有



【演習】 指示が通らない

指示したとおりに動けない
自分勝手な行動をする

隠れている要因

考えられる
支援方法

発表を聞く時のポイント

- 自分たちのグループとは違う別の要因
- 要因は同じだけど支援方法が違う



支援方法について

【学習指導要領解説 総則編】

※()は中学校

第3章 教育課程の編成及び実施

第1節 小学校(中学校)教育の基本と教育課程の役割

第2節 教育課程の編成

第3節 教育課程の実施と学習評価

第4節 児童(生徒)の発達の支援

1 児童(生徒)の発達を支える指導の充実

2 特別な配慮を必要とする児童(生徒)への指導

(1) 障害のある児童(生徒)などへの指導

第5節 学校運営上の留意事項

第6節 道徳教育推進上の配慮事項

学習指導要領(教科・領域)『第4章 指導計画の作成と内容の取扱い』より

○障害のある児童(生徒)への配慮についての事項

障害のある児童(生徒)などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと
通常の学級においても、**発達障害を含む障害のある児童(生徒)が在籍している可能性があることを前提に**、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう、障害種別の指導の工夫のみならず、各教科等の**学びの過程において考えられる困難さ**に対する指導の工夫の意図、手立てを明確にすることが重要である

学習指導要領(道徳)『第5章道徳科の評価』より

○障害のある児童(生徒)への配慮についての事項

発達障害等のある児童(生徒)に対する指導や評価を行う上では、それぞれの**学習の過程で考えられる「困難さの状態」**をしっかりと把握した上で必要な配慮が求められる

全ての教科・領域において記載

【考えられる困難さ】

- ①見えにくさ
- ②聞こえにくさ
- ③道具の操作の困難さ
- ④移動上の制約
- ⑤健康面や安全面での制約
- ⑥発音のしにくさ
- ⑦心理的な不安定
- ⑧人間関係形成の困難さ
- ⑨読み書きや計算等の困難さ
- ⑩注意の集中を持続することが苦手 等

困難さに応じた支援方法

困難さ	支援方法（例）
見えにくさ	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>見えやすい板書・教材を工夫する（文字の大きさ・字体・色・行間等）<input type="checkbox"/>タブレット型端末を使用し、必要な箇所を写真に撮影し、手元に拡大画像を置く<input type="checkbox"/>拡大プリントを用意する
聞こえにくさ	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>座席に配慮する<input type="checkbox"/>情報を確実に伝える（聞く体制になったことを確認してから指示を出す、指示や大事なポイントは文字にして伝える、一斉指示の後、個別に確認を行う等）
道具の操作の困難さ	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>使い易い道具を用意する（定規・コンパス・分度器・リコーダー等）
移動上の制約	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>座席を出入り口の近くにし、移動し易くしたり、スムーズに活動できる動線を示したりする
健康面や安全面での制約	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>避難訓練や初めての場所での活動の際は、事前に絵や写真などで見通しを持たせておく<input type="checkbox"/>物の使い方や活動のルールをいつでも確認できるように示しておく

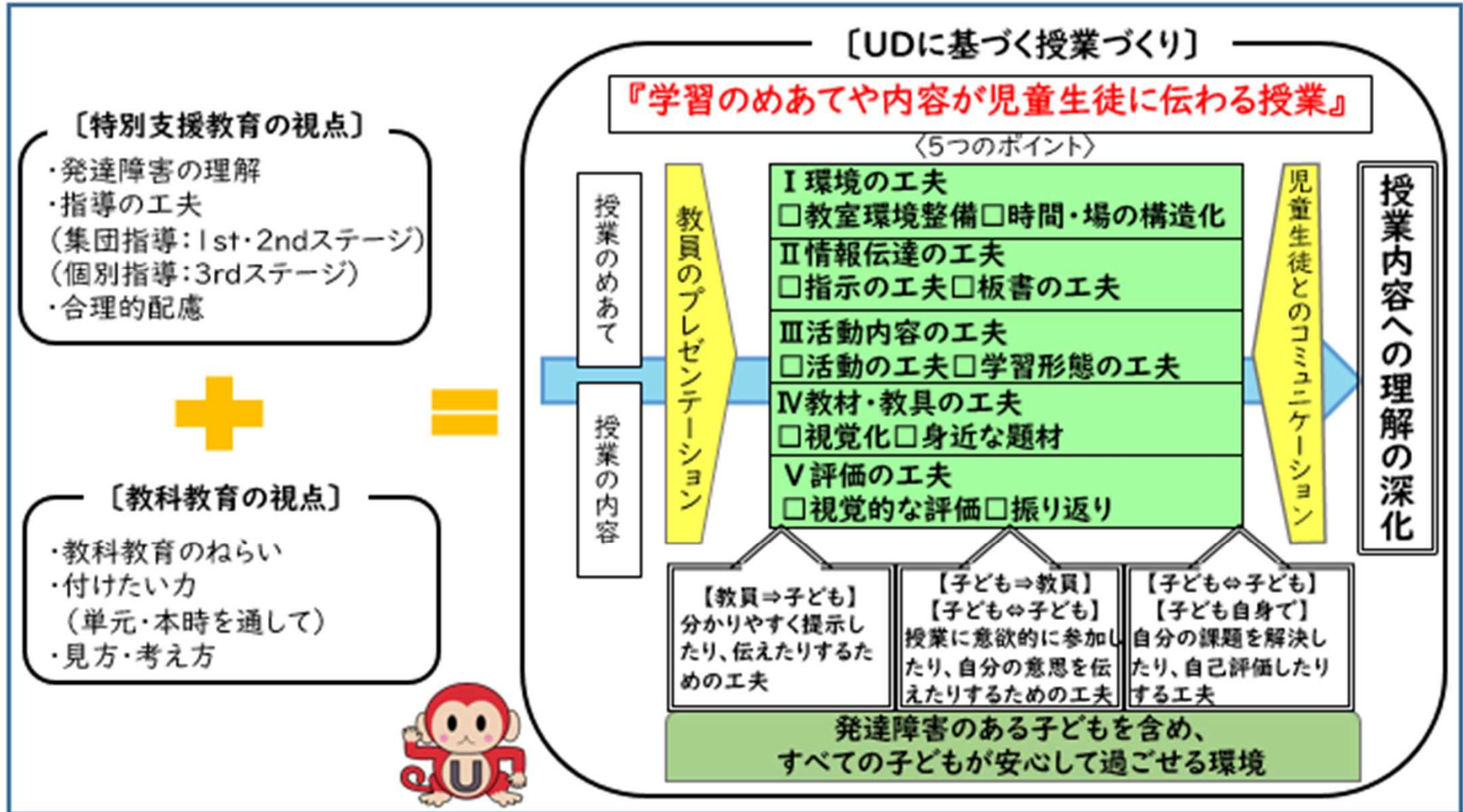
困難さ	支援方法（例）
発音のしにくさ	<input type="checkbox"/> 言葉での発表だけではなく、ICTの活用や絵や図で表現することも認める <input type="checkbox"/> 言い直しを何度もさせない
心理的な不安定	<input type="checkbox"/> 困ったときのSOSの出し方を確認しておく（挙手、意思表示カード、教員や支援員に伝える等） <input type="checkbox"/> 集団の前で発表するときは、話をする内容を事前に紙にまとめて準備したり、ボイスレコーダーなどの機器を使用したりして、人前で話すことの不安を減らす
人間関係形成の困難さ	<input type="checkbox"/> 座席や班、グループ編成の際には、対象児童生徒が安心できるよう配慮する
読み書きや計算等の困難さ	<input type="checkbox"/> どこを読んでいるか分かる工夫（スリット、必要な箇所にマーカー、分かち書きの資料作成等） <input type="checkbox"/> 読み仮名をふる <input type="checkbox"/> 使い易い導具、ノート、プリントなどを使用する <input type="checkbox"/> 書く量や時間を調節する <input type="checkbox"/> 視覚的な手がかり（図、絵、具体物等）や操作を活用する
注意の集中を持続することが苦手	<input type="checkbox"/> 集中できる環境を整える <input type="checkbox"/> 興味をもって取り組める内容や手立てを工夫する <input type="checkbox"/> 役割を与える等、能動的に参加できる授業を行う

学びの過程において考えられる【**困難さ**】に対する【**指導の工夫の意図**】 + 【**手立て**】の例

【国語科の例】

- **自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難な**場合には、**生徒が身近に感じられる文章（例えば、同年代の主人公の物語など）を取り上げ、文章に表れている心情やその変化等が分かるよう、行動の描写や会話文に含まれている気持ちがよく伝わってくる語句等に気付かせたり、心情の移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示したり、心情の変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させたりするなどの配慮をする。**
- **比較的長い文章を書くなど、一定量の文字を書くことが困難な場合には、文字を書く負担を軽減するため、手書きだけではなくICT機器を使って文章を書くことができるようにするなどの配慮をする。**
- **声を出して発表することに困難がある場合や人前で話すことへの不安を抱いている場合には、紙やホワイトボードに書いたものを提示したりICT機器を活用したりして発表するなど、多様な表現方法が選択できるように工夫し、自分の考えを表すことに対する自信がもてるような配慮をする。**

【特別支援教育の視点を大切にした授業づくり】



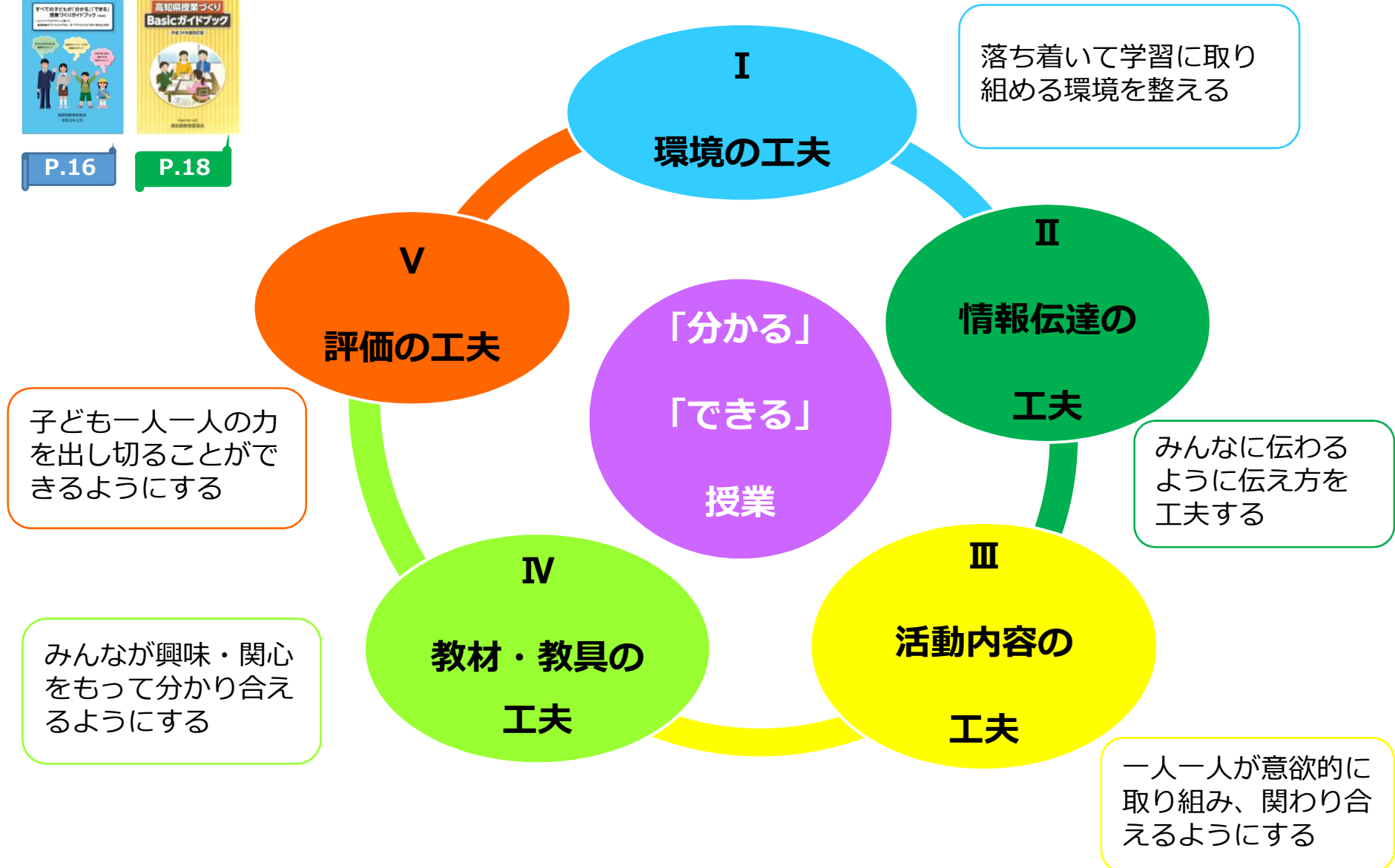
ユニバーサルデザインの授業づくり



P.16



P.18



I 環境の工夫

～落ち着いて学習に取り組める環境を整える～

- 教室環境の整備
 - ・ 何をどこに片づけるか明確にする
 - ・ 教室の前面を意識的にすっきりさせる
 - ・ 掲示物をカテゴリー別に分ける
- 時間の構造化
 - ・ 1日のスケジュールや1時間の授業の見通しを持つようにする
- 座席の位置
 - ・ 廊下側、窓側、真ん中など、子どもの落ち着きやすい座席
- 教室のルール
 - ・ 学習姿勢に気を付けるように、具体的に指示する

Ⅱ 情報伝達の工夫

～みんなに伝わるように伝え方を工夫する～

□指示の工夫

- ・ 具体的で明確な指示
- ・ 指示語を多用しない
- ・ 言語指示だけでなく、視覚的な指示も活用する
- ・ 活動途中で指示をするときは一度活動を止めてから話す

□構造的な板書

- ・ 授業の流れが分かる板書にする
- ・ 文字の大きさや量を考慮する
- ・ 掲示する資料は、たくさん貼ったり、情報量が多くなりすぎないようにしたりする
- ・ 見えやすい文字の色や行間等に配慮する

Ⅲ 活動内容の工夫

～一人一人が意欲的に取り組み、関わり合えるようにする～

□活動の工夫

- ・ 集中が続くように活動内容や活動時間を工夫する
(例:「動」と「静」の活動を組み合わせる・課題のスムーズステップ化を図る等)
- ・ 体験的な活動や操作を取り入れる
- ・ 難易度が違う活動内容や課題を用意し、子どもが選択できる場面を設定する
- ・ 理解が早い子どもへの対応を行う

□学習形態の工夫

- ・ ペア学習、グループ学習を取り入れるなど、児童生徒同士が関わり合い、学びあい、教えあう場を設定する

IV 教材・教具の工夫

～みんなが興味・関心を持って分かり合えるようにする～

- 日常生活や経験したこと等を生かした活動を考える
- 視覚的なものを活用する
- 子どもの習熟度に応じたプリントを用意する
- ICTを活用する
 - ・ タブレット端末
 - ・ デジタル教科書
 - ・ 電子黒板

「令和の日本型学校教育」

全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと、**協働的な学び**の実現に向けて

学校教育の基盤的なツールとして、ICTは
必要不可欠なもの

これまでの実践とICTとを最適に組み合わせる

日常的
な活用

ICT

きめ細
かな支
援

当たり
前のこ
と

文房具
として
活用

V 評価の工夫

～子ども一人一人の力を出し切ることができるようにする～

□視覚的な評価をする

- ・シールを貼ったり○印をつけたりする
- ・作品やノートなどにコメントを入れる
- ・黒板に花丸をつけていく
- ・付箋に肯定的な評価の言葉を書いて、机やノートに貼る

□子どもに伝わる方法で褒める

- ・具体的に伝える

□次の活動へ繋げる

- ・できたことや頑張ったこと等を、タイミングよく評価し、意欲を高める
- ・自己評価（振り返り）を行い、次への目標を意識付ける

ユニバーサルデザインの授業づくり



P.16

ユニバーサルデザインに基づく「分かる・できる」授業とは、**学習のめあてや内容が児童生徒に伝わる授業**のことです。

※授業の質を落としたり、内容を簡単にしたりするということではなく、児童生徒に分かりやすいことを追求するということです。

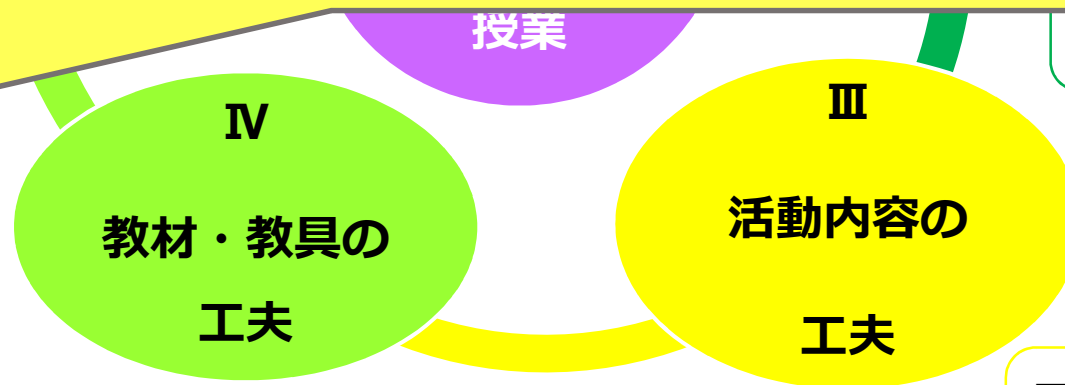
落ち着いて学習に取り組める

子ども一人一人の力を発揮できるようにする

どのように伝わるように伝え方を工夫する

みんなが興味・関心をもって分かり合えるようにする。

一人一人が意欲的に取り組み、関わり合えるようにする



【付けるべき力の育成を目指した学習指導の流れ】

学習過程	細分化した学習過程	児童・生徒の姿	ポイント	該当ページ	
I 見通し 時間・場・手順・内容 I 環境の工夫	■前時の振り返り		<input type="checkbox"/> ノートや掲示物でこれまでの学習を想起させる <input type="checkbox"/> 子どもが振り返りを発表する <input type="checkbox"/> 単元における本時の位置付けを確認する	BasicにはUDの視点がたくさん含まれています	
	1. 問題の提示		<input type="checkbox"/> 子どもが問いをもてるような問題を提示する <input type="checkbox"/> 提示の仕方を工夫する		
	2. 問いをもつ 問いの共有	本時の学習課題(めあて)をしっかりとつかみ、課題解決への見通しを立てている。	<input type="checkbox"/> はじめに個人で問題を確認する <input type="checkbox"/> 教科等に応じた問いをもつ視点を示す <input type="checkbox"/> <u>全員が解決への見通しを立てられるようにする</u>	P24 P25	
	3. 学習課題・めあての設定 ■ <u>学習の流れの確認</u>		<input type="checkbox"/> ねらいを達成した子どもの姿をイメージする <input type="checkbox"/> <u>子どもが「何を学ぶのか」を明確に把握できるようにする</u> <input type="checkbox"/> <u>全員が自力解決の見通しを立てることができているかを確認する</u>	P26 P27	
II 解決活動 III 活動内容の工夫	4. 自力解決	課題解決に向かい、意欲的に取り組み、自分の考えがもてている。	<input type="checkbox"/> 思考の時間を十分確保する <input type="checkbox"/> 考えの根拠や理由を書かせる <input type="checkbox"/> 本時のねらいを意識し、机間指導で個と全体の状況を見取る <input type="checkbox"/> <u>赤ペンを持って回り、称賛やアドバイスをする</u> <input type="checkbox"/> <u>困っている子どもがいる場合は、教え合う場を設定する</u>	V 評価の工夫 III 活動内容の工夫	P28 P29
	5. 集団解決 ■ <u>ペア・グループ活動</u>	仲間との対話等を通して、自分の考えを広げたり深めたりしている。	<input type="checkbox"/> 聞き手の方を向いて自分の考えを伝え合う <input type="checkbox"/> 友達の考えの良さを褒めたりアドバイスをしたりする <input type="checkbox"/> 友達の考えを記録する(自分とは違った考え等)	V 評価の工夫 II 情報伝達の工夫	P30
	■ <u>全体での練り上げ(考察)</u>		<input type="checkbox"/> 司会者や記録者等の役割を決める <input type="checkbox"/> <u>話し合いの目的と手順を明確に伝える</u> <input type="checkbox"/> <u>ホワイトボードや思考ツールで意見を可視化する</u>	II 情報伝達の工夫 IV 教材・教具の工夫	P30 P31
	■ <u>教員の修正</u>		<input type="checkbox"/> 発表の仕方や聞き方を指導する <input type="checkbox"/> <u>子どもの意見を構造化しながら板書する</u>	II 情報伝達の工夫	P32 P33
			<input type="checkbox"/> 意見の整理や修正を行う		P32
III まとめ	6. まとめ(価値の共有)	本時の学習課題(めあて)を達成し、学習内容が定着している。	<input type="checkbox"/> 子どもの言葉でまとめる <input type="checkbox"/> キーワードを使ってまとめる <input type="checkbox"/> 本時の学習課題(めあて)との整合性を図る(まとめの書き出しの言葉を示しておく)		P34
IV 振り返り	7. 振り返り(メタ認知)	本時の学習課題(めあて)に対し、自分の学習の高まりやその要因を確認している。	<input type="checkbox"/> 視点を示して振り返らせる <input type="checkbox"/> 全員が「何を学んだのか」認識できるようにする	V 評価の工夫	P35

自分のよさを認められる子どもに

